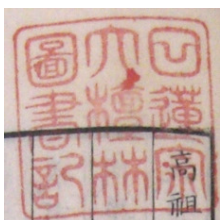
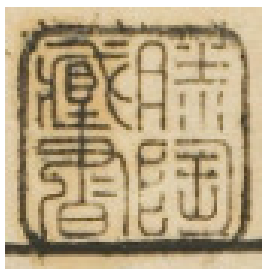
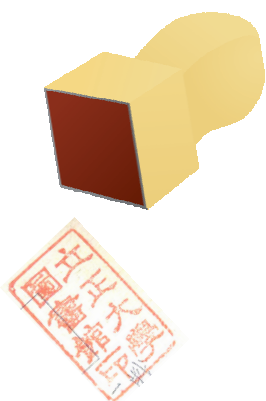


蔵書印と識語の世界

十二月三日〜十七日



大崎学術情報サービス課

平成25年度企画展 「蔵書印と識語の世界」

開催期間 12月3日(火)～12月17日(火)

蔵書印とは、書物の所蔵を明らかにするために蔵書に捺した印影のこと。また、識語とは、書物の余白に書き加えた文章や署名のことを指します。これらを調査することにより、私たちはその書物の系譜や由来、来歴を知るための手がかりを得ることができるのです。

蔵書印・識語には様々な形があり、それらを使用した時代や機関の種類、個人によってそれぞれに特徴が表れています。今回は、当館に代々受け継がれてきた特徴ある蔵書の印影や識語にスポットを当て展示いたしました。旧蔵者や所有者の心底にある愛書精神に触れていただけましたら幸いです。



貞松山蓮永寺旧蔵書

静岡県静岡市葵区沓谷に在る日蓮宗寺院、貞松山蓮永寺から寄贈された蔵書群。旧蔵書には「貞松山蓮永寺印」「良山貞松蓮永寺印」などの印が押印されている。



河口慧海蔵旧蔵書

明治30年(1897)、チベットに初めて入国した日本人として知られている河口慧海の旧蔵書。仏教の原典を求め、単独、徒歩で入国したチベットから数多くの蔵書を持ち帰った。河口慧海は自らの蔵書に創設した佛教宣揚會の蔵書印「佛教宣揚會蔵書之印」や識語を残している。



村上藩医・藤井家旧蔵書

村上藩(現、新潟県)の藩医であった藤井家の旧蔵書。蔵書印には「藤井陶民」「藤陶蔵書」の印が用いられている。蔵書は医学書を中心に構成されていた。



立正大学関係蔵書

立正大学の淵源は天正8年(1580)に飯高檀林が発祥したことに始まる。その後、宗教院、日蓮宗大檀林、日蓮宗大学林等を経て、大正13年(1924)の大学令によって、現在の立正大学の名称となった。当館所蔵の数多くの和装本に、立正大学以前の名称時期の蔵書印を発見することができる。

《展示リスト》

■貞松山蓮永寺旧蔵書

稲川詩章 7巻5冊(合冊)

帝艦図説 前集 4冊

大慧普覚禅師年譜 1冊

世説新語補 20巻10冊(合冊)

■河口慧海旧蔵書

蔵文大日経(平版オフセット印行)

金光明経 1冊

梵文和譯法華経 1冊

sGra'i bstan bcos sum cu pa'i tshigdon gSal ba'i me long 19葉

■村上藩医・藤井家旧蔵書

解体新書 5冊

傷寒論弁正 6冊

藤井頭明日記：自萬延二年三月至萬延二年六月 1冊

■立正大学関係蔵書

賞教院、大檀林、日蓮宗大学印 押印資料

